



Kyoutoshiritsu Ichiharano Syougakkou

K I S だより

令和8年9月30日
学校評価臨時号
京都市立市原野小学校
校長 岩井 輝康



第1回学校評価アンケート結果報告



令和8年度第1回学校評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。本アンケートは、「子ども」「保護者」「教職員」が共通の項目について、それぞれの取組や学校の様子を振り返る形式で実施しました。

今回のアンケート結果から、子どもたちが友達と楽しく関わりながら学校生活を送っている様子がうかがえました。

昨年度のアンケートの分析・考察などから、今年度は、子どもたちがより主体的に活動できる力を高められるように学校教育活動を進めております。その成果として、高学年を中心とした委員会活動やたてわり活動では、子どもたちが楽しめる取組を多く計画・運営することができました。こうした取組を続けることで、子どもたち一人一人が教職員や保護者、地域の皆様とともに『楽しい』K I Sをつくる一員として、積極的に行動できるようになってきました。

概ね良好な結果の反面、次面の項目①「表現する」、②「聞く」などのように、「子ども・保護者」の【ご家庭の評価】と「教職員」の【学校の評価】に差異が見られました。また、項目⑦「あいさつ」、⑩「規則正しい生活」のように【子どもの評価】と保護者・教職員の【大人の評価】に差異が見られたものもありました。ご家庭と学校でのそれぞれの取組が明確に伝わるようにすることで、子どもの力をさらに高めていけるのではないかと考えます。学校からも様々な取組の内容やねらいを発信し、保護者の方と連携を取りながら、教育活動を進めてまいります。

また、保護者の方から、子どもたちの日々の生活や学校行事の在り方についてご意見・ご質問をいただきました。いただいたご意見につきましては、子どもたちがより良い学校生活を送れるように、校内で検討していきます。ご協力ありがとうございました。

今後も、家庭・地域の皆様と学校が連携しながら、子どもたちの主体性を育み、さらに『楽しい』K I Sとなるように学校教育活動を進めてまいります。

令和8年度 KIS教育目標

「自ら学び、心豊かに

たくましく生きる子」の育成

～『楽しい』KISをみんなの力で～

【目指す子ども像】

＜自ら学ぶ子＞

しっかり聞く子 自分のおもしろい表現をする子 進んで読書をする子

＜心豊かな子＞

相手を理解して、自分も相手も大切にできる子

＜たくましい子＞

自分の行動に^{まる}つけができる子 最後まで粘り強く取り組む子



Kyoutoshiritsu Ichiharano Syougakkou

〈評価項目と集計結果〉

帯グラフの項目

できている

どちらかという
できている

どちらかという
できていない

できていない

アンケート項目は、本校の学校教育目標「自ら学び、心豊かにたくましく生きる子」の育成～『楽しい』K I Sをみんなの力で～に基づいています。帯グラフの数値は全て割合（％）を示しています。

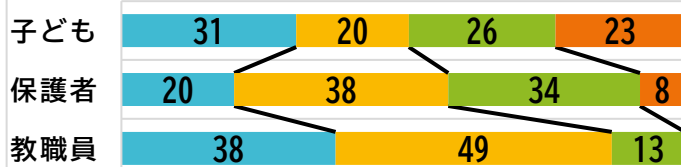
①表現する



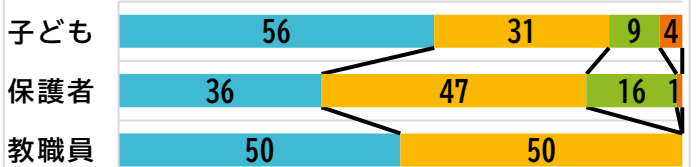
②聞く



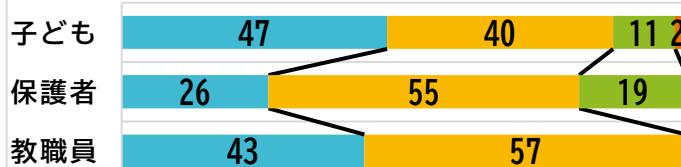
③読書



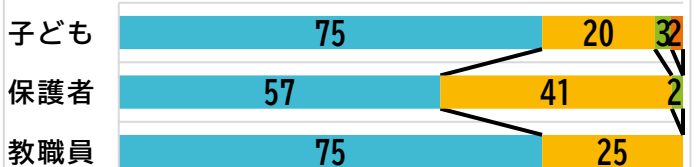
④効果的な I C T 活用



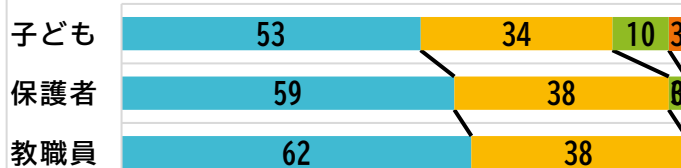
⑤家庭学習



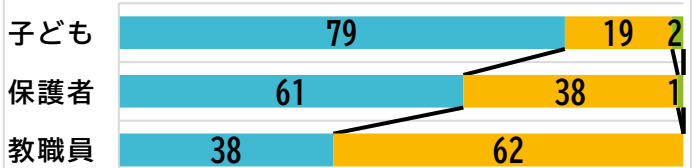
⑥楽しく活動



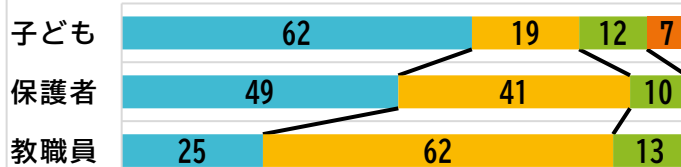
⑦あいさつ



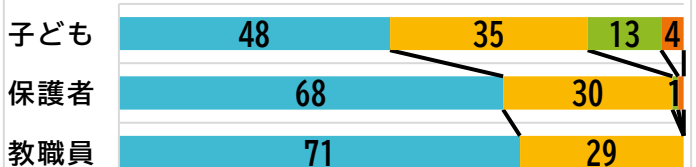
⑧友達



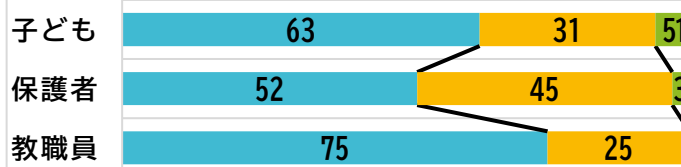
⑨運動



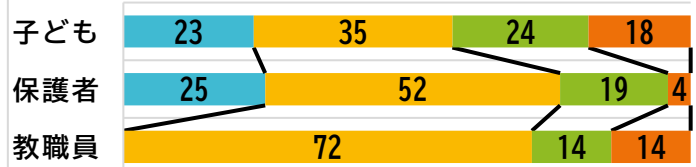
⑩規則正しい生活



⑪きまり



⑫ P T A ・ 地域連携



〈主な項目の分析・考察〉

数値はすべて割合（％）を示しています。（ ）内は昨年度第２回目の結果です。

	③ 読書	できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない
子ども	家で進んで本を読んでいる。	31 (34)	20 (17)	26 (27)	23 (22)
保護者	保護者は、子どもが本に興味をもち、進んで読書に取り組めるように働きかけている。	20 (28)	38 (31)	34 (28)	8 (13)
教職員	子どもが本に興味をもち、進んで読書に取り組めるように工夫している。	38 (17)	49 (66)	13 (17)	0 (0)

昨年度と同様の結果となりました。学校では、６月のあじさい読書週間と、１１月のもみじ読書月間に加えて、毎月「４」と「６」がつく日の休み時間に読み聞かせをしています。様々な取組を通して、本を好んで開こうとする様子は見られ始めています。毎朝の読書タイムでは落ち着いて本を読む姿が見られるようになりました。

もう少し時間が必要なようですが、今後も１００冊読書達成を目指して、「本を読むことはおもしろい、家でも本を読みたい。」という気持ちを高められるように取り組んでいきます。

	④ 効果的なＩＣＴ活用	できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない
子ども	パソコンやスマートフォンなどの決まりを守りながら、学習に活用している。	56 (49)	31 (37)	9 (11)	4 (3)
保護者	保護者は、パソコンやスマートフォンなどの使い方や時間、マナーなどについて子どもと話し合っている。	36 (25)	47 (56)	16 (18)	1 (1)
教職員	GIGA端末を効果的に活用して授業を進めるとともに、ＩＣＴ機器のルールやマナーについて指導している。	50 (36)	50 (64)	0 (0)	0 (0)

三者とも８０％以上が良好な回答をしていますが、子ども・保護者の１０％以上は十分ではないとの回答でした。ＩＣＴ活用が広がり、他校とのリモート交流など幅広い学習活動が可能になりました。動画の共有やＡＩ機能の搭載など、今後も活用を広げる一方、学校内外でＩＣＴ機器の取扱いの問題や情報モラル、ゲーム依存、個人情報の流出など様々な不安や問題を抱えるようになってきたのも事実です。

学校では、調べ学習やまとめに活用できる方法を身に付けたり、個人情報保護など自分や周りの人を守るための手立てを学んだりして、正しく効果的なＩＣＴ活用ができるようにしています。ご家庭でも、ＩＣＴ端末の使用ルールを決める、書き込み内容を確認するなど、必要な見守りを続けてほしいと思います。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。



	⑤ 家庭学習	できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない
子ども	家庭学習に毎日ていねいに取り組めている。	47 (49)	40 (33)	11 (14)	2 (4)
保護者	保護者は、家庭学習にていねいに取り組めるよう、子どもに働きかけている。	26 (24)	55 (59)	19 (16)	0 (1)
教職員	家庭学習の習慣をつけるために、学年の発達に応じた時間・内容の課題を出すなど工夫している。	43 (27)	57 (64)	0 (9)	0 (0)

三者とも80%以上が良好な回答をしていますが、子ども・保護者の10%以上は十分ではないとの回答でした。今年度当初に「家庭学習のすすめかたについて」を配布しました。各学年に応じた家庭学習に取り組んでおり、高学年では自主学習にも力を入れています。家庭学習はご家庭での温かい関わりが、子どもたちの学習への意欲と力につながります。引き続き、日々のご協力どうぞよろしくお願いいたします。

	⑥ 楽しく活動	できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない
子ども	学校で楽しく過ごしている。	75 (80)	20 (15)	3 (3)	2 (2)
保護者	保護者は、学校での様子を聞いたり、がんばりを励ましたりするなど、子どもが学校で楽しく過ごせるように働きかけている。	57 (53)	41 (44)	2 (3)	0 (0)
教職員	子ども一人一人の良さを大切に、学校で楽しく過ごせるように取り組んでいる。	75 (67)	25 (33)	0 (0)	0 (0)

三者とも95%以上が良好な結果となりました。学習がわかる楽しさ、できなかったことができるようになる楽しさ、周りの人とともに過ごす楽しさ、友達との関係が良くなり明るい気持ちで過ごせる楽しさ、計画した取組を実現できた楽しさなど、「楽しいK I S」が子どもたちに十分に広がっていると考えられます。

一方で、クラスの1～2名に当たる子どもは学校を楽しめていないという回答でした。一人一人を見守り、「困り」「悩み」に気づいて、K I Sの子どもたちすべてが「楽しい」と感じる学校を目指します。

	⑩ 規則正しい生活	できている	どちらかという とできている	どちらかという とできていない	できていない
子ども	早寝早起き朝ごはんの習慣が身に付き、決まった時刻に登校している。	48 (42)	35 (41)	13 (12)	4 (5)
保護者	保護者は、子どもに早寝早起き朝ごはんの習慣が身に付くように働きかけ、決まった時刻に学校に送り出している。	68 (67)	30 (29)	1 (4)	1 (0)
教職員	早寝早起きをすることや、朝ご飯を食べることの大切さを指導している。	71 (50)	29 (42)	0 (8)	0 (0)

保護者、教職員は95%以上、子どもは80%以上で、大人と子どもで差が見られる結果となりました。身近な大人たちが声をかけたり、一緒に準備をしたりすることで、子どもたちの規則正しい生活ができるようになってきています。

これからは、自分に必要なことは何か、どの順番で進めればよいか、持ち物をどこに置けばいいのかなどを子ども自身が考え、判断し、行動することを求められます。子どもたちが自分の力で規則正しい生活をする事で子どもの15%超が十分でないという回答が少なくなることにつながると考えています。